

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503486), 法人名 (株式会社 ゆうらく), 事業所名 (高齢者グループホーム「遊楽館」平岡), 所在地 (札幌市清田区平岡4条1丁目12-4), 自己評価作成日 (平成26年3月14日), 評価結果市町村受理日 (平成26年5月12日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、家庭的な雰囲気の中で、安心して、個々のペースに合わせてゆったりと過ごせるよう取り組んでいます。また、その方らしく今までの生活習慣が続けられるようにも努めています。毎月、外出や四季を感じて頂けるような行事を行い、職員と共に楽しみ、笑顔が溢れるようなホーム作りにも力を入れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2013\_022\_kani=tr ue&JigvovsyoCd=0170503486-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年3月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、清田区内の閑静な住宅街にあり、周辺には大型ショッピングモールやスーパー、コンビニ等の商業施設が立ち並び、大変利便性の高い場所である。建物2階建てで、2ユニットのグループホームを運営しており、広い敷地内にある菜園では、冬瓜やトマト、ナス、ピーマン等の作物を植え、利用者も一緒に手伝い、外気に触れる機会を多くしている。外出支援では、初詣に出かけたり、雪まつりを車窓から見学したり、花見や外食等も行ない、家族にも年間行事計画を送付し、家族の参加を促している。また、行政側との協力関係を積極的に築くよう、区のグループホーム管理者会議連絡会や区主催のSOS、研修会、交流会等に参加し、情報交換をしている。今現在、地域との連携、協力関係をより一層深めるため、地域との交流や運営推進会議、災害避難訓練等で協力体制ができるよう、積極的に取り組んでおり、今後、大いに期待ができる事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	おう	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務室等に理念を掲示、朝の申し送り後に理念を唱和する事で意識を持って業務にあたるよう心掛けている。	法人理念と事業所運営方針を事業所内に掲示している。また、朝の申し送りに、その理念を唱和して、職員間で共有し、ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベントやボランティアで近隣住民と交流はあるが、日常的には交流していない。町内会の行事にも参加していない。	町内会に加入しているが、交流が薄い。日常的に交流していけるよう働きかけていき、事業所行事にも参加してもらえるよう、取り組んでいる。	地域との交流や結びつきを強化するよう、積極的に働きかけ、運営推進会議への参加や防災訓練等での連携、協力体制が築けるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でご家族には発信出来ているが、地域住民との交流や町内会への参加が少ないため、認知症への理解は発信出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行われており、会議内で話し合われた内容は、毎月の会議の中で職員に伝えられており、会議の意見がケアに活かされている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、運営状況や活動報告等を行い、参加者より意見や要望を聞き入れて、サービス向上に活かしている。	議事録作成の際、日時や議題内容とその詳細、運営状況等を具体的に記録し、家族へ送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各職員が市町村担当者と話す機会がない為、協力関係が築けているかわからない。	区のグループホーム管理者会議連絡会への参加や区主催のSOS、研修会、交流会等に参加し情報交換しており、行政側との連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は安全対策の為、玄関を施錠しているが、日中は施錠をしておらず、自由に入りが出来る。身体拘束の理解については、もっと勉強し理解が必要。	身体拘束に関してのマニュアルが整備されている。外部研修会にも参加しているが、来年度から内部での勉強会を偶数月に行なっていく予定である。施錠は夜間のみで、日中はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員が虐待の意識を持ってケアにあたっているが、まだまだ勉強不足のところもあるので、職員主催の勉強会、研修で学ぶ機会が必要。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	おう	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解出来ている職員は、少ないと思われる為、職員全員が制度の知識を学ぶ機会が必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応しており、契約時は、契約書、重要事項説明書の読み合わせ、補足説明しており、理解を得ての締結に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアに関する要望や意見に関しては、来訪時やケアプラン説明時にお聴きし反映させている。	利用者との会話や家族の来訪時での会話、ケアプラン作成時での意見交換、家族アンケートの実施等で意見や要望を聞いている。家族会の設立を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議時に意見や提案を聴く機会を設けている。	定期的に会議を開催し、また会長の来訪時に、同法人運営のグループホームと合同で会議を行い、職員からの意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めていると思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会はあるが、全職員に反映されていない為、研修報告会などの勉強会も必要。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内の管理者連絡会主催の研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	おう	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安に思っている事を関わりを通して理解できる環境作り、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族より、不安・要望等を伺ったり、来訪時等に意見や要望をお聴きし、信頼関係の構築と安心できる環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを行いケアプランを作成している。モニタリングを行い、本人やご家族の要望を反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らせる環境作り、暮らしのパートナーとして意識を持ち信頼関係を構築出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係が築けているとは、十分にいけない為、各職員共に支えていく関係を築けるよう工夫していく必要がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来訪出来る環境に努めているが、馴染みの場所の関係までには至っていない。	家族や知人が来訪しやすい環境作りをしている。行きつけの床屋さんやお墓参り、冠婚葬祭に出席する等、家族の協力を得ながら、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々に把握し、孤立しないようにし食席等の工夫はしているが、満足とは言えない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	おう	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	職員では、取り組みが出来ているとはいえない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや本人、ご家族から情報を提供して頂き、検討し対応している。	アセスメントを行い、利用者との会話や家族から意見を聞き、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや本人、ご家族から情報を提供して頂き、職員が共有する事で把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、ケース記録やカンファレンスで情報を共有し、状況把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から意見・要望等を聴き、毎月のカンファレンスで検討し、ケアプランを作成している。	担当者が決まっており、利用者や家族から意見や希望を聞き、月1回のカンファレンスで検討し、ケアプランを作成している。3ヶ月に1回、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録で情報の共有は出来ているが、より細かな工夫や記録の仕方が必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	治療院によるマッサージなど、その時のニーズに対応が少しづつ出来ているが、まだ満足できる柔軟な支援とはいえない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を全て把握出来ていない為、上手く支援出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院があるが、本人やご家族の希望・要望があれば、対応し支援している。	往診は月1回、訪問看護は週1回行なっている。かかりつけ医には基本的に、職員が同行し、受診結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	おう	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、24時間オンコールでの対応で、どんな特変でも電話で相談対応ができ、個々の利用者を支援出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報や面会時に医療機関との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、行われていない為、ご家族と話し合いはされていない。今後、ターミナルケアを予定している。	重度化、終末期に関しての方針は書面にて作成し、同意書を交わしている。今後、ターミナルケアを行なえるよう準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルが作成されているが、職員全員が把握出来ていない為、救命講習など定期的に研修参加が必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い指導は受けているが、地域住民との協力体制は築けていない。	年2回、火災(日中、夜間)想定で避難訓練を行なっている。避難経路図の掲示や避難場所の把握がされており、災害用備蓄品も確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する言葉掛けを全職員が心掛けているが、プライバシーの確保に関しては満足とはいえない。	呼称は本人の希望する呼び方でしている。各利用者の人格を尊重し、気持ちを損ねないように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や声のトーン、会話の中の喜怒哀楽を汲み取るように努めているが、自己決定を出来る環境が少ないので工夫が必要。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切に支援するように心掛けているが、満足とはいえない為工夫が必要。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を伺い美容室や買い物に出掛けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	おう	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみながら出来るように、座席等工夫している。食べられないメニューがあれば別メニューでお出ししている。時々ではあるが、野菜の皮むき、米とぎなどの調理や食器洗いなどの片付けと一緒にやっている。	食材業者の専属栄養士がメニューを作成し、利用者の健康管理を支えている。職員が調理し、行事食等も対応している。利用者と一緒に食事の準備や後片付け等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の把握は出来ている。個々に合わせた食事形態に対応、持病を考慮した支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを行っている。必要に応じて、ブラッシング等の介助を行い清潔にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し排泄パターンを把握、声掛けや誘導を行い支援を行っている。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努め、定時誘導やその時の状況に応じてトイレ誘導を行なっている。できる限り、トイレでの排泄ができるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、食事の工夫、下剤や坐薬を使用し、個々に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に伺いながら入浴しているが、希望がないのもあり、入浴日、時間は決めてしまっている為、工夫が必要。	入浴は週2~3回設定しているが、利用者の体調等に合わせ、柔軟に対応をするよう心掛けている。入浴剤を使用したり、乾燥した果物の皮を浴槽に入れたり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて、声掛けや誘導を行い安心して、気持ちよく眠れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状を理解し、薬表を用いて薬の目的は把握しているが、利用者全員の副作用までは把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が好んで行なうことが出来る事を見つけ楽しめる環境を作れるよう努めているが、まだ工夫が必要。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	おう	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外食、買い物など、個々の希望に応じて、お誘いし外出しているが、家族、地域の人々の協力までには至っていない。	天気の良い日は近隣への散歩や買い物の出かけたり、花見や紅葉狩り、初詣など、外出する機会を増やしている。年間行事計画を家族へ送付し、家族の参加を促している。また、菜園や花壇作りを利用者と一緒に行い、より多く外気に触れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がホームにて管理しているが、自己管理されている方も数名いる。ホームにて管理している方も希望があれば使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を置かれている方もおり、自由に使用出来るようになっている。本人に届いた手紙はお渡ししているが、本人より手紙を返せるような支援は出来ない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、浴室の場所がわかるように工夫し、リビングにも季節感のある掲示物を不快にならないように飾っている。共有空間がもっと居心地の良い環境になるように努めていく必要もある。	広いリビングには季節に合わせた飾り付けをしている。温湿度も適切に保たれており、快適な居住空間となっている。トイレや浴室の場所がわかりやすいように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩コーナーやソファ等で、気の合った利用者同士が過ごせる環境はあるが、共有空間で独りになる空間がない為、工夫が必要。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や好みの物を持って来て頂いている。家具の配置なども本人に合わせて工夫している。	居室内には使い慣れたタンスやソファ等を持参したり、馴染みのあるものを持ち込み、本人が暮らしやすい居住空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事やわかる事を把握しているが、安全を考慮することで出来る事を職員が行ってしまう場面がある為、自立に向けた支援の見極めと工夫が必要。		